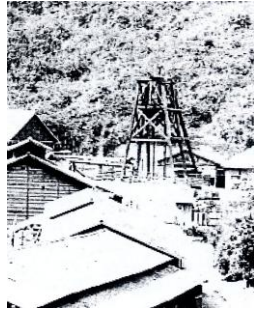


筑豊炭田の近代化は目尾炭坑から始まった！

飯塚エリア



1 目尾炭坑跡 飯塚市目尾

ポンプ揚水成功の目尾炭坑槽
(九州歴史資料館所蔵)

明治初年人力で石炭が採掘され、水が出て揚水に行きつると炭坑を休止するなど、最大の隘路でした。この難関を杉山徳三郎が明治14年に目尾炭坑でポンプ揚水に成功し、各炭鉱もこぞってポンプ揚水に切り替え急激に出炭量が増加しました。筑豊炭田の近代化発祥の地として現在調査が進められています。



2 旧伊藤傳右衛門邸と庭園

炭坑のポンプ、巻上機
製造の旧幸袋工作所
(会社カタログより)

目尾炭坑から遠賀川の上流に向かって2kmのところ、明治29年に炭坑のポンプ、巻上機などの機械を製作する幸袋工作所が筑豊の御三家といわれる貝島太助、安川敬一郎、麻生太吉等の筑豊炭田の先駆者たちが発起人となり創立され、伊藤傳右衛門が社長に就任して技術を継承し、筑豊の近代化に貢献しました。

近くに現存している旧伊藤傳右衛門邸で昭和22年逝去まで経営にかかわり筑豊炭田の中央工場の役目を果たしました。

旧伊藤邸は明治30年代後半に建造され、大正、昭和にわたり増改築。平成19年4月から開館されて飯塚市の人気スポットとなり、平成23年9月庭園は国の名勝に指定されました。



3 三菱飯塚炭坑巻上機台座 飯塚市

明治時代から大正にかけて、筑豊の炭鉱は主として石炭層に沿って坑道を掘り進む斜坑が主体でした。

この巻上機台座は大正時代に建造された筑豊では最大級のもので高さ12mもあり、台座の上に巻上機を据付けて石炭や資材運搬をしました。昭和11年三菱飯塚炭坑として発足し昭和36年閉山。現在市指定文化財、経産省近代化産業遺産として認定されました。



4 住友忠隈炭砒ボタ山 飯塚市忠隈

明治18年に麻生太吉により開かれ、明治27年住友が買収、住友の主力炭砒として創業し、昭和40年閉山しました。

石炭以外のボタが昭和4年から捨てられ、出炭量の増大でボタ山が形成されたといわれています。このボタ山は三つの峰からなり、高さは113~141m、周囲2kmの巨大な人工のヤマで、形が良いので「筑豊富士」と呼ばれて人々に親しまれ、筑豊炭田の貴重な記念碑となっています。

伊田竪坑の深部開発成功で近代化が進展した！

田川エリア



5-1 伊田竪坑槽と二本煙突 田川市石炭記念公園

明治40年代筑豊炭田の深部開発の竪坑開鑿し、近代化を推進した伊田第1竪坑槽と蒸気巻の動力源のボイラーの煙突が三井田川炭鉱伊田坑跡地に出来た石炭記念公園内に保存されており国指定文化財です。

明治末期に同じく三菱方城炭礦竪坑と製鉄二瀬炭鉱竪坑が開鑿されて、日本の三大竪坑として筑豊炭田近代化のシンボルとなりました。



5-2 コールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり

毎年11月初めに開催される炭坑節まつりは、炭坑節の碑や竪坑槽・二本煙突のそばで、香春岳を眺めながら数千人の人々が炭坑節を踊る光景は圧巻であり、筑豊炭田の歴史と現在を繋ぐ強い絆となっており、無形の石炭産業近代化遺産の価値が極めて高いものがあります。



5-3 田川市石炭・歴史博物館

昭和58年三井田川炭鉱伊田坑跡に建設された「田川市石炭資料館」は平成5年「田川市石炭・歴史博物館」として拡充されました。館内には平成23年5月に「世界記憶遺産」に登録された山本作兵衛炭坑記録画や、炭鉱の様子、屋外炭鉱機械類や明治・大正・昭和の炭礦住宅の移り変わりなどが展示されています。

直方エリア



6 直方市石炭記念館本館と練習坑道

昭和46年に開館した記念館の本館は明治43年に筑豊石炭鉱業組合直方会議所の建物として建造、筑豊炭田の健全な発展を求める経営者団体の中心的な協議の場として活躍しました。

記念館の後ろには、炭鉱の災害時に活動する救護練習坑道が建造され、炭鉱が閉山するまで1万人の隊員を養成しました。



7 奥野医院 現谷尾美術館 直方市

筑豊炭田の中心地として発展した直方市には、かつて貝島鉱業本社があり、近代的な建物が多く残されています。その中で大正2年開業した奥野医院は昭和15年再建され、現在は谷尾美術館として活動しています。周囲には当時の建物が多く保存され、伝統的建造物群保存地区を目指しています。

自家用車 観光モデルコース

